

## 日本あちこち河川遡行記(第250回)

京都 1-2-2-1. 高野川(その3) 平成30年7月21日(土) 快晴

豪雨の後は酷暑の連続！老人の熱中症の事故、死亡が相次ぎ遡行を躊躇していたが、今日は酷暑の谷間のような予想天候なので意を決して出かける。青春18切符が使えるようになったので片道4時間半の旅に出る。朝6時5分発の姫路行きに乗りこむと、18切符組の老人、大きなバッグを床に置いた帰省の学生等が居る居る。三石～上郡間で回って来る車掌に切符に日付印を押してもらいながら「今日の18組の乗りはどう？」と聞くと、「未だ少ないですね」とのことで座席にも少し空きが有る。

相生で播州赤穂からの新快速に乗り換え京都へ。地下鉄「国際会館」の地上のバスターミナルに来ると大原行きは4分前に出たところで30分ほど待つことになる。外人を含めた多くの人が日陰に並び、貴船口・鞍馬行きが来ると大半の人が乗り込み、後から来た大原行きには10名程度が乗車する。納涼には貴船の川床が一番なのかな？兵庫の歩きで失った日傘を倉敷のデパートで買ったので今日から使用することにした。10時45分大原に到着。バス停は広い待合スペースと切符売り場の有る立派な停留所である。



01.大原のバス停(ターミナル)は立派だ

先ず「三千院」に立ち寄って逆遡行をするつもりであったが、この酷暑の中院の往復で体力を取られると本職？の橋の調査が中途半端になるので蛇足は止めて本来の姿で川に向かう。バスで通って来た国道の歩道を南に向かうと10mほど下の川に最近架け替えられたような橋が足元に見える。一見沈下橋のように見えるが橋は右岸側の護岸の上に架けられ、周りよりも高い位置にある。これなら周りの方が沈下するな。正面に目をやると先日訪れた寂光院の有る谷間が見える。



### 02.沈下橋封の橋の奥の谷に寂光院が有る

府道 40 号が国道から分離する交差点の前の漬物工場に特産の「紫蘇」が軽トラで運び込まれ荷卸しをしていたのでカシャ。暑いさなかであるが今が漬けどきののだろう。こちら側にコンビニがあったので立ち寄りサンドとコンビニ冷コを買い中で食する。

10分の休憩で再開し府道に入り西に向かう。直ぐに府道の橋が架かり見てみると錆がだいぶん進行している。二けた府道にしては状態がよろしくない。



### 03.紫蘇漬工場に紫蘇を搬入



### 04.二桁府道の橋にしては状態がよろしくない

橋を渡り 200m ほど進むと道は南方向に向きを変える。角には京都府警の大原駐在所の二階建ての建物が目立つ。天下の大原にしては平凡な姿だ。あの騎馬警官のエンブレムも無いぞ。

道を南に進むと府道は西に再び方向を変え「江文峠」を越えて行く。府道と別れそのまま南に向かう。道の東側に広い畑一面に赤紫色の紫蘇が植えられている。この景色は大原らしい。



05.天下の大原の駐在所としては  
建物がいまいちどすな



06.一面の紫蘇に眩暈しそう

大原井出町に NHKE テレに出演している「ベニシア」さんのお宅が有る、との知人からお知らせを受けていたのでついでに少し寄り道をする。西の山裾の庭に各種植物が有るそれらしき家が彼女の家か？ 家の前には「PRIVATE」と書かれた板が掛けられていたので間違いないだろう。直ぐに U ターンして川に戻る。



07.これがベニシアさんの家ろ庭か？

国道に戻り北側の「花尻橋」を見て大原地区から八瀬地区に入る。交差点の南側の両側に紫蘇漬けで有名な漬物屋の建物が並んでいる。左側には広い敷地に売店とレストランと駐車場が有る。京都ブランドと言えば、着物、料理、野菜、漬物が思い浮かぶが、ここは漬物1本で大きくなったなー。土井と言う名前は料理研究家（親子二代）といい食べ物で大成する名前のような。売り場の品物を見る形で涼を取る。建物の東側の川との間の河岸段丘には直営の紫蘇畑

が広がり、これは凄い量だ。



08.国道の両側に紫蘇漬けで有名な会社の建物が

09.建物の土産売り場の外側には自前の畑が

「美濃瀬橋」を渡り左岸側を進む。両側から山が迫り狭い溪谷が続く。途中に三段の堰から流れ落ちる姿の水音が暑さを和らげてくれる。八瀬秋元地区を進むと国道脇に立派な門を備えたお屋敷風の建物が現れる。皇族のお屋敷か美術館のような姿であるが、その正体は小学校なのだ。こんな立派な小学校は見たことが有りません。



10.酷暑にこの景色と音が涼気をくれる

11.エッ！この佇まいが小学校とは

午後となり日差しはますます強まり、こりゃオエンぞな！「八瀬近衛町」の「七瀬橋」を見た所でタオルを投げることにする。橋際の「宮の田」バス停でバスの時刻を見ると10分後に出町柳・四条河原町・四条烏丸経由京都駅行きが来るので日傘をさして暫し待つ。やって来たバスの車窓から目を凝らして見

残した二つの橋の状況を見て行く。

四条通りと烏丸通りは市電時代以来見ていないので出町柳で降りないでそのまま乗り続ける。四条通りは増える歩行者の安全確保のため車道を上下とも1車線に減らし、歩道を拡張したのを最近読んだ本で知っていたのでその状況も見ることにした。この暑いさなか通りは人が溢れている。ユー達も最小限の衣類を身に着け歩いている。河原町を越えると南側の歩道の奥に八坂神社の御輿が3台、多くの提灯、お神酒に囲まれて出番を待っている。



## 12. 四条通りに祇園さんの3台の御輿が鎮座

烏丸通りを何十年ぶりかに南に進むと東本願寺の前で相変わらず道は大きく湾曲している。仏の力は道をも曲げてしまうのだ。京都駅で下車する時に運転手さんに四条通の車線減少の結果を聞くと、「嫌がる人もいるようだが自分は運転しやすくなったのでOKだ」とのことである。

目指していた新快速に間に合い、姫路、相生、岡山とスムーズに乗り継ぎ長—いお尻の痛くなる時間が続く。10,000キロを突破したぞー！

本日の歩行距離：6.2km。調査した橋の数：10。

総歩行距離：10,005.9km。総調査橋数：12,175。

使用した1/25,000地形図：「大原」（京都及大阪2号-3）、「京都東北部」（京都及大阪2号-4）